

# 2005 年 第 9 回日本代替・相補・伝統医療連合会議 (JACT)

## バイオフィーマンティクス®を応用した過敏性腸症候群 (IBS) 管理の臨床試験

○関口守衛；ドイツ文化会館・赤坂関口クリニック (医師)

日常一般臨床において下痢、便秘の両者ないし片方が存在する IBS と思われる症例が多く存在する。通常は便の物理的性状を改善しても快便が得られず、QOL (quality of life) に障害があるので、開発 10 年以上の経験があるバイオフィーマンティクス (BF: ALA 製) を用いたところ臨床的に有用であることを認識したので JACT 第 2 報として報告する。

### 【方法】

IBS のローマ基準を示す症例について、まず 2 週間の便通記録と共に日常生活における心身状態を記録してもらい、BF である「生源」の連続服用をすすめた。「生源」は各種の有効乳酸菌、酵母で大豆を元にして混合培養して得られた発酵生産物である。前回の JACT 発表後に症例をふやし、なお長期使用を行った (年齢 30 ~ 76 歳; n=10)。

### 【結果】

無効例 (n=2) 以外の有効 8 例中 4 例は全身的に気分爽快となり、使用継続を希望して服用している。今回の発表で強調したいことは、当初の服用量が効き過ぎた感じもあるので、自然に自己減量を試みても快便状態が継続していることであった。

### 【結論】

本症に対する有効性の判定には従来の便通に対する物理的性状の改善の他に、自律神経系、ないしストレス改善のような心身医学的要因についても改善に BF が有用なサプリメントとなりテーラー・メイド医療に役立つと考えられた。